



（尚）栗栖工業

濱村 宏伸さん

【防府】「技能五輪ではこれまで、山口県代表として出場したとび職種の選手は3年連続で入賞しており、ここで連続入賞を止めてはいけないという緊張の中、入賞できてほっとしている」と話すのは、昨年12月に千葉県などで開催された第53回技能五輪全国大会とび職種に出場し銅賞を獲得した栗栖工業の濱村宏伸さん（22歳）。

技能五輪全国大会は、技能レベルを競うことで努力目標を与えることも

濱村さんは今回の成績。競技課題である登りについて「大会が終了し、桟橋では、桟木の番線と安堵（あんど）の気持ちと寸法、板の付け合わせの悔しさが残った。ふだん段差をどの形が一番きれいなのかを考え、調整す

を作ってもらい、休みや忙しい毎日だが、やりが仕事終了後にいろいろ教いがすくある男として「格好のいい仕事だと思う。先輩たちは皆とても格好よくすくく頼れるので、その背中を見てこれからは二級とび技能士、富士工基幹技能者の資格を取

## 技能五輪で「銅賞」獲得

### 「背中で語れる」とび職人「めざす

に、技能を身近に触れるば金賞を取れる自信があることに苦労した。本番機会を提供するなど、国民に対して技能の重要性がわからないくらい頭で時間を費やしてしまうことも社会的役に立っていないと誇りに思えた」と目を輝かせる。

平成24年に尚栗栖工業に入社後、27年に二級とび技能士取得、足場の組立等作業主任者技能講習を修了。また、ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育、酸欠特別教育など

成を図ることを目的に満23歳以下の技能者の技能レベル全国一を競う大会も悔しい」と振り返る。また、大会に向けた準備、競技課題で苦労したちに練習をしやすい環境が、現場は「とてもきつく

野田市長。野田市長は「とてもきつく野田市長は」



野田市長は「とてもきつく野田市長は」